

大阪公立大学

大学院看護学研究科

博士前期課程 / 博士後期課程



【お問合せ】

大阪公立大学大学院看護学研究科 事務室
TEL: 06-6645-3511 (阿倍野キャンパス)
TEL: 072-950-2117 (羽曳野キャンパス)
月～金曜日(祝日及び休業日を除く)
9:00～17:00 (12:00～12:45を除く)

新学舎増築中(設計時のパースのため、変更となる場合があります)



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

高度先進医療の推進や ヘルスケア 保健・医療・福祉における

教育理念

生命と人権の尊重を基盤とし、保健医療福祉
創造性豊かな実践や研究をけん引できる実践者、

博士前期課程

■ 定員 50 名 ■ 学位 修士（看護学） ■ 標準修業年限 2 年

■ 取得可能資格 専門看護師認定審査受験資格

がん看護、精神看護、老人看護、小児看護、慢性疾患看護、
急性・重症患者看護、感染症看護、家族支援、在宅看護

認定看護管理者認定審査受験資格（看護管理実践者）

助産師国家試験受験資格

保健師国家試験受験資格（2025年度入学生以降 予定）

研究的取り組みを志向する修士論文コースと多様な側面から看護実践の質の向上を
図ることに貢献する実践看護研究コースを置いています。

■修士論文コース

研究的取り組みを志向することを目的とします。

先進ケア科学領域では、看護師の資格保有の有無に関わらず、学際的に探究する
思考力を有する人材を育成します。

実践看護科学領域では、看護師の資格取得者を対象に、主に看護に関わる事象を
分析し、理論的に探究できる能力を有する人材を育成します。

■実践看護研究コース

多様な側面から看護実践の質の向上を図ることに貢献できる専門看護師、看護教
育者、看護管理実践者を養成することを目的とします。



Habikino Campus

大阪の健康長寿社会を支える サポート人材の養成 革新的な研究の発信をめざします

および社会の諸変化に対して人々のクオリティ・オブ・ライフ（QOL）を志向した
研究者、教育者を育成し、看護学および地域の発展と国際社会に貢献する。

博士後期課程

■ 定員 10 名 ■ 学位 博士（看護学）

■ 標準修業年限 3 年

豊かな学識を有し、看護学を含む保健医療福祉分野において学術的研究を推進し、そ
の深奥を究め、高い倫理観を持ち、自立して研究活動を行い、看護学の知の創造に貢
献できる能力を有する人材を育成します。そのため、専門領域を先進ケア科学領域お
よび実践看護科学領域とし、先進ケア科学領域には 10 分野、実践看護科学領域には
4 分野の多様で専門性の高い分野を配置しています。



Abeno Campus

◆ 専攻分野 ◆

修士 修士論文コース
実践 実践看護研究コース

注：保健師国家試験受験資格プログラムは 2025 年開設予定。

領域	分野名		前期課程	後期課程
実践看護科学領域	基礎看護科学	看護技術学	看護問題の解決に用いられる看護技術の科学的根拠やそれに関連する理論について理解し、看護実践の場において提供される看護技術の実証的、開発的な研究を行う。	修士
		看護情報学	データサイエンス、ヘルスコミュニケーション、Evidence-Based Practice等の知識や技能を修得し、データや情報の活用力・分析力・解釈力を養う。また、疫学や統計学を基盤とした量的研究で、健康増進や看護の質向上等に資する研究を行う。	修士
		看護管理学	急速に変化する社会情勢とそれに対応する保健・医療・福祉システムを管理の視点から分析し、看護管理上の課題を明らかにするとともに、看護サービスの質の向上に寄与する看護管理のあり方を多角的に検討する。管理上の資源である人的・物的・経済的資源等を対象に、看護管理実践に根ざして実証的に研究する。	修士 実践 看護管理実践者
		看護教育学	看護基礎教育と継続教育という側面から看護教育の本質を探究し、専門的な理論を基盤とした看護教育方法を修得する。また、看護教育に関する諸理論および関連学問を活用して、看護ケアの質を高めるための教育的役割と機能、教育方法、教育評価等についての研究を行う。	修士 実践 看護教育者
	生活支援看護科学	精神看護学	精神医療・保健・福祉の変遷に伴い拡大した看護の役割をふまえ、精神の健康を維持増進する看護に必要な、理論や概念、および対象に即した専門的実践方法を修得する。また、精神看護の活動の志向性に沿った効果的な実践方法を探究する。	修士 実践 専門看護師
		在宅看護学	在宅療養者とその家族のアセスメント及びケアマネジメントの理論と方法論、専門的看護実践の技法を修得する。また、地域の生活と文化に依拠した看護の探究及び在宅ケアシステムの構築、ケアの質評価、教育、連携・調整、経営管理について修得するとともに、その課題に関する実証的な研究を行う。	修士 実践 専門看護師
		地域看護学	個人、集団、地域・組織の特性に応じた健康の維持・増進を目指し、対象の現状とニーズ把握、支援方法や社会資源の開発、連携のあり方等について探究する。また、個人、家族および集団の健康指標、コミュニティやその構成員に関する質的・量的評価、顕在・潜在的健康課題の解決に向けた実践的研究を行う。	修士
		老年看護学	老年看護学における概念及び諸理論を基盤とし、高齢者と家族の QOL 向上に寄与する看護を科学的に探究する。複雑な健康課題を抱える高齢者の価値観・信念に基づいた主体的な生活を支援する看護実践、認知症を有する高齢者と家族への看護実践、高齢者ケアを担う専門職との連携・協働等を課題とした実践的な研究を行う。	修士 実践 専門看護師
	家族支援看護科学	小児看護学	現代社会の背景、親子関係、成長発達理論等をふまえて、子どもとその家族の健やかな成長発達のための援助方法を探究する。また、先天性疾患、急性疾患、慢性疾患、ハンディキャップ、メンタルヘルスの問題など、さまざまな状況にある子どもとその家族が抱える発達や健康に関する課題への看護援助について実証的な研究を行う。	修士 実践 専門看護師
		家族看護学	家族を看護の対象とし、家族が本来有する機能と家族の健康に関するケア機能を高める援助を探究する。また、家族に生ずる健康問題、それに関連した要因への看護援助について家族看護の諸理論を活用し、実証的な研究を行う。	修士 実践 専門看護師
		母性看護・助産学	マタニティサイクルにおける母子と家族の健康維持・増進ならびに疾病予防に対する看護支援、セクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツの促進活動に寄与する看護について諸理論を活用し実証的研究を行う。助産師資格取得プログラムでは、自律した助産ケア、母子への包括ケア能力などを有する専門職者を育成する。	修士 助産師

領域	分野名		前期課程	後期課程
実践看護科学領域	療養支援看護科学	急性看護学	周手術期及びクリティカルな状況にある患者並びにその家族への、高度な看護判断と看護援助を探究するとともに、QOL の向上に寄与するアセスメント、看護介入、アドボカシー、患者教育などに関する研究能力を養う。	修士 実践 専門看護師
		がん看護学	がん患者と家族への看護に適用される概念・理論をふまえ、がんとともに生き、QOL を充実させるための看護援助を科学的に探究する。また、がん患者の苦痛・苦悩に対して、倫理的視点を含めた高度な看護判断に基づいた看護援助技術を探究する。さらに、がんをめぐる健康上の諸問題に関して、看護学の視点から実際の看護現象を通して実証的な看護研究を行う。	修士 実践 専門看護師
		慢性看護学	慢性疾患を病む人の生活への身体的、心理的、社会的影響、その理解や看護に必要な概念や理論を学ぶとともに、慢性疾患の予防期から終末期までの看護支援に関わる知識や技術を修得する。また慢性疾患を病む人とその家族の課題を解決し、QOL 向上に寄与する実証的な研究に取り組む。	修士 実践 専門看護師
		感染看護学	看護ケアを行ううえで必要な感染防止技術や感染管理方法について科学的に探求し、感染看護の専門的知識・技術を修得する。また、易感染患者や感染症患者の QOL 向上に寄与する感染看護実践のあり方や施設および地域における効果的な感染管理システムに関する実証的な研究を行う。	修士 実践 専門看護師
先進ケア科学領域	ケアシステム科学	ヒューマンケア科学	人の健康や生活の質の向上をはかるヒューマンケアのあり方を探究する。看護実践、看護教育、看護管理の視点において、多角的にヒューマンケアとケアシステムに関する研究を行う。	修士
		療養ケア科学	健康問題を抱えその療養上の困難を体験する対象を多面的に理解し、身体・心理・社会的な問題と看護援助の現状を把握する。さらに、療養上の問題を解決する思考過程を培い研究能力を養う。	修士
		子ども・家族ケア科学	小児看護学および家族看護学の発展に寄与することを基本理念とする。子どもの健全な成長・発達を保障し、子どもと子どもをもつ家族の健康と幸福の実現を支援するための理論や方法論について探究する。研究を遂行するプロセスを通じて、小児看護学・家族看護学の研究や実践に必要な基礎的能力を養う。	修士
		地域包括ケア科学	医療、介護、予防、生活支援、社会参加など学際的側面から人々のケアニーズにアプローチする地域包括ケアを探究する。地域包括ケアのモデルや支援の基本を理解し、療養者、虚弱な高齢者などケアニーズの高い人々の生活の質の向上と機能低下予防を目指す基礎的な研究を展開する。	修士
	生体行動ケア科学	ヘルスプロモーションケア科学	公衆衛生看護学を基盤として、地域で生活するあらゆる人々の健康と福祉の向上のために、人々の健康課題を的確に分析・予測し、かつ予防的に問題解決を図り、革新的な方策の開発等に資する研究能力と実践能力の開発をグローバルな視点から養う。	修士
		がん包括ケア科学	がん患者・家族が体験する身体的・心理的・社会的苦痛を、広範な理論・概念の学びを通して共感的・かつ科学的に理解する。さらに、この学びを発展させ新たながん看護の創生を目指す。同時に、がん看護臨床に働く看護師（集団）の働き方に関する検討も、がん看護の質向上を目指すがん包括ケア科学の探求課題である。	修士
		高齢者生活行動ケア科学	加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化、認知症等の疾患や障害をもって生活する人々の生活機能について、地域社会を含めた広義の生活環境と合わせて実態を把握する方法を学び、高齢者の生活行動ケアの課題を探究する。	修士
		ウィメンズヘルスケア科学	ウィメンズヘルスケアに関連する理論や最新の知見、女性を取り巻く社会情勢をふまえ、女性のライフサイクル各期の健康問題やリプロダクティブヘルスを増進するためのケアを理論的、科学的に探究する。	修士
		精神行動ケア科学	精神科疾患をもつ人々や家族の看護援助を行うための諸理論を理解することにより、精神的健康の維持向上およびリカバリーを支える看護援助と研究課題を探究する。	修士
		健康支援基礎科学	基礎研究：実験医学研究を行う上で必要となる生化学的・細胞生物学的手法を習得すると共に癌および動脈硬化・血管石灰化の治療応用への基礎となる研究を行う。 臨床研究：統計解析手法を習得すると共にそれを用いて糖尿病合併症の発症・進展におけるバイオマーカーの役割について研究する。	修士

◆ 各種制度 ◆

長期履修制度

職業を有している等の事情により、標準修業年限での教育課程の履修が困難な学生を対象として、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することにより学位を取得できる制度です。

(1) 申請資格 次のいずれかに該当する者

- ① 職業を有し、就業している者
- ② 育児・介護等の事情を有する者
- ③ その他、相当の理由があると認められる者

(2) 長期履修の期間

- ・博士前期課程：3～4年間で研究科が認める期間
*長期履修制度を適用していない分野もあります
- ・博士後期課程：4～6年間で研究科が認める期間

先行履修制度（学士修士一貫プログラム）

本研究科に進学を希望する本学部生を対象とした履修制度です。入学前に大学院博士前期課程科目の履修を行い、関心のある分野の学識をさらに深めた上でキャリアをスタートできます。

●先行履修コース

4年次より研究科前期課程の科目の先行履修を開始し、通常の入学試験を経て次年度4月に研究科博士前期課程修士論文コースに入学し、標準修業年限の2年での修了を目指す。

●早期修了コース

4年次より研究科前期課程の科目の先行履修を開始し、通常の入学試験を経て次年度4月に研究科博士前期課程修士論文コースに入学し、優れた業績をあげ研究科博士前期課程の修了要件をみたすことにより1年間で研究科博士前期課程の修了を目指す。

*ただし学部入学から通算5年間で研究科博士前期課程の修了を保証するものではありません

経済支援制度

経済的な理由により学業をあきらめることなく、自らの意志と責任で夢を追い求められるよう複数の経済支援制度があります。

募集要項など
入試情報について



各小分野の
大学院教育及び
研究内容について



カリキュラムや
専攻について



◆ 修了生の声 ◆

デジタル化する社会に適応した 看護学研究の担い手を目指して

本学大学院前期博士課程（現博士前期課程）に入学して良かったことは、自分の無知を知ることができたこと、物事を広い視点から見ることの大切さを学べたことです。研究指導を通して、看護実践を科学的にとらえなおす技法を学ぶ際に、自分自身の経験を生かし研究の萌芽へと発展させる重要性など、今までにはなかった考え方を学ぶ機会が多くありました。これらは、看護師として勤務する中で得られなかった学びであったため、本学大学院に入学して本当に良かったと感じています。さらに、本学は社会人学生に対する授業スケジュールを柔軟に調整してくださることや、看護学研究科がある阿倍野キャンパスへのアクセスが非常に良いことも魅力のひとつ

つであると感じています。これらのおかげで、時間管理がスムーズに行え、看護師を続けながら2年で修了することができました。仕事と学業を両立させる大変さはもちろんありますが、日々進歩する医療に携わりつつ、経済基盤も確保しながら学修に臨めたことは大変助かりました。

今後は時代の動向を把握し、現代のデジタル化する社会に適した研究活動を実施できるよう、前期博士課程の2年間の学びを活かしていきたいと思います。

大阪市立大学大学院看護学研究科前期博士課程

2020年度修了 岩崎 賢一

〈現在の所属〉

大阪市立大学大学院看護学研究科後期博士課程 在学中

エビデンスをもとに 複雑で解決困難な患者・家族の問題 を解決するケアを探求

大学院進学までの長い臨床経験の中で、数々のがん患者や家族と関わってきましたが、患者の抱えている複雑で解決困難な問題が見えてくるにつれ、次第に自分の看護に限界を感じるようになりました。自己の看護師としての能力を高め、多職種とも協働しながら目の前の問題を解決していきたいと考えようになり、本学の博士前期課程の専門看護師教育課程に進みました。大学院では、現場での実践の基盤となる理論や概念について学んだり、指導教員からのご指導や院生たちとのディスカッションを通して思考プロセスが鍛えられたり、様々な施設から集まってきた幅広い年齢層の同級生たち

との交流によって刺激を受けるなど中身の濃い2年間を過ごしました。大学院での学びは、臨床での複雑な現象に対して、種々の情報を統合して臨床判断をおこない必要なケアに結びつけたり、俯瞰的な視点で問題を整理し解決の方向を見いだしていく力になり現場での実践に役立っています。

大学院生活は学習に追われ多忙ではありましたが、自己と深く向き合う機会を得ることもでき、その後の活動をおこなう上でも貴重な時間でした。ぜひ皆さんも大学院の扉をたたいて自己の看護の拡がりや深化に向けて歩みを進めてみませんか。

大阪府立大学大学院看護学研究科博士前期課程 CNS コース

2012年度修了 中村 由美

〈現在の所属〉

奈良県立医科大学附属病院 がん看護専門看護師

研究の楽しさと厳しさに触れながら 探究の旅に浸れる至福の時間

私が博士後期課程に進学した動機は、博士前期課程で研究の楽しさを指導教員に教えていただいたからです。そして、研究方法についてまだまだ十分に理解できていないことや、自分の未熟さもよく分かったため、さらに学ばなければいけないとも思っていました。大阪府立大学大学院看護学研究科では必修科目などカリキュラムに沿って学ぶことで、おのずと博士後期課程での研究プロセスに活用できる内容となっており、研究を進めていくうえでとても役立ちました。また、研究指導の際には、指導教員からすべてを論理的に説明することが求められ、なぜこの研究に取り組むのか、なぜこの研究方法を用いるのかなど一つひとつ丁寧に考えていくことを改めて教わりました。研究のすべての内容が説明できるよう、

様々な文献を探して読んだことも、一つのことを探求していく楽しさを実感できる体験となりました。このような丁寧で厳しいご指導を受けたこともあり、博士後期課程での研究を論文投稿したところ、日本老年看護学会で研究論文優秀賞を受賞することができました。とてもうれしかったです。

博士後期課程で学ぶことは、進学するまでは大変だろうと尻込みする部分もありました。しかし、いざ進学すると自分の興味のあることを追求できる楽しい時間でした。是非皆さんもチャレンジしてみてください。

大阪府立大学大学院看護学研究科博士後期課程

2018年度修了 笹谷 真由美

〈現在の所属〉

神戸女子大学大学院看護学研究科 教授